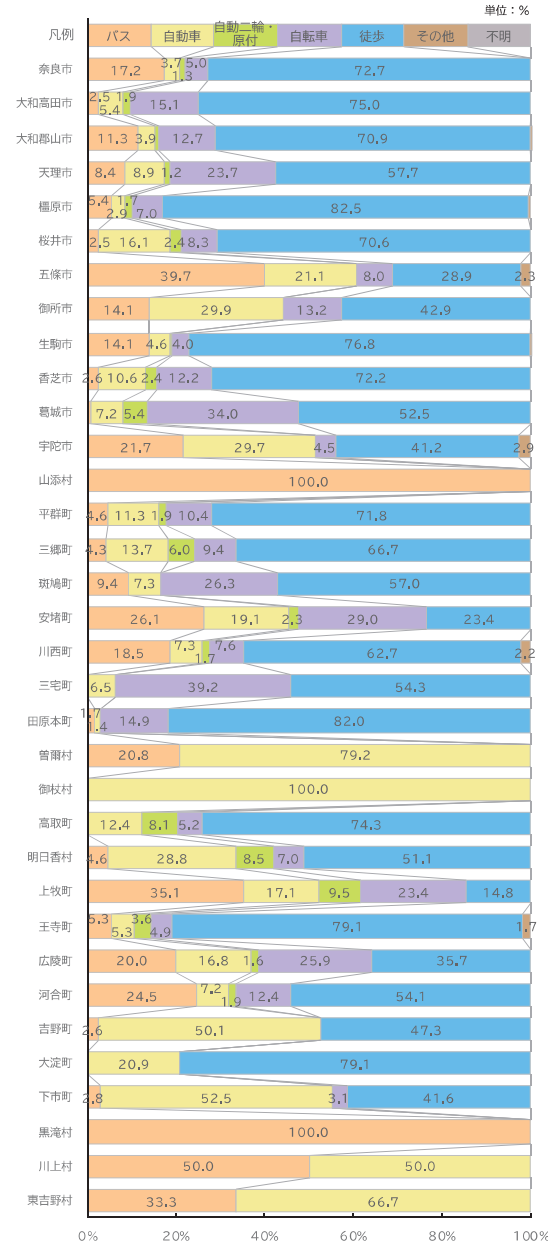


交通手段からみた人の動き

1 市町村別の鉄道端末手段構成

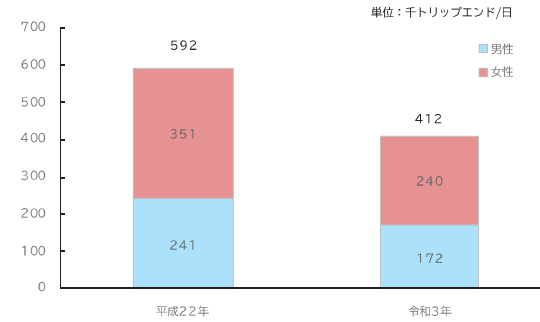
- 鉄道駅へ行くため、あるいは鉄道駅から降りてからの交通手段（鉄道端末手段）の構成を市町村別にみると、徒歩は、橿原市で8割を上回るほか、奈良県北部・中部で、7割を上回る市町が多くなっています。
- バスは、村域を除くと、五條市、宇陀市、安堵町、上牧町、広陵町、河合町で2割を上回っています。
- 自転車は、天理市、葛城市、斑鳩町、安堵町、三宅町、上牧町、広陵町で2割を上回っています。
- ※天川村、野迫川村、十津川村、上北山村、下北山村については該当サンプルがないため、グラフの作図は割愛しています。

図25 市町村別の鉄道端末手段構成比（令和3年）



資料：第6回近畿圏パーソナルトリップ調査

図26 男女別にみた自転車（代表交通手段）の発生集中量の推移（平成22年～令和3年）

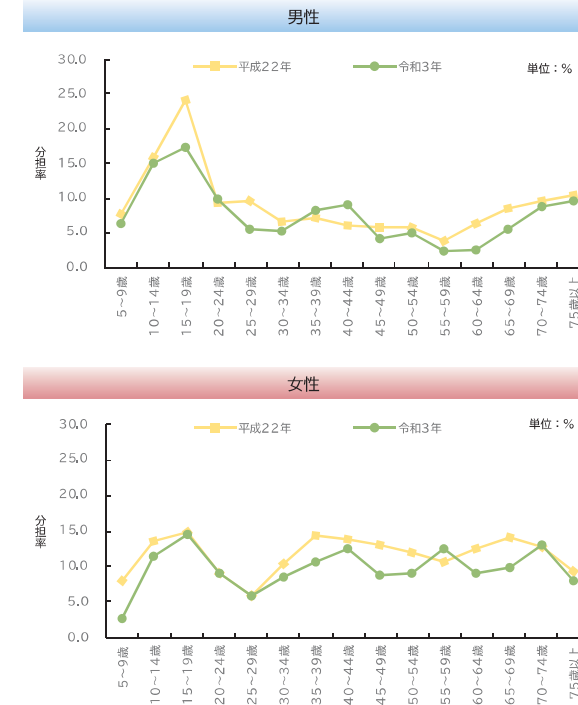


資料：第5～6回近畿圏パーソナルトリップ調査

2 自転車利用トリップの推移

- 自転車トリップの推移を性別にみると、平成22年から令和3年にかけて、自転車利用は男性で3割弱、女性で3割強の減少がみられます。

図27 年齢層別にみた自転車（代表交通手段）分担率の推移（平成22年～令和3年）



資料：第5～6回近畿圏パーソナルトリップ調査

- 男性の自転車分担率を年齢層別にみると、平成22年から令和3年にかけて、35～44歳以外のほぼすべての年齢層で利用が減少傾向にあります。
- 特に、15～19歳と25～29歳、60～69歳の利用の減少が顕著です。

- 女性の自転車分担率を年齢層別にみると、平成22年から令和3年にかけて、男性よりも大きく減少しています。
- 女性の自転車分担率を年齢層別にみると、平成22年から令和3年にかけて、55～59歳以外のほぼすべての年齢層で利用が減少傾向にあります。
- 男性に比べて、30歳以上の世代での利用の減少が目立ちます。